二〇一七年八月一一日

夕焼に一人降りたつ島のバス　うつぎ
櫂止めて合図を待てる流燈会　なつき

二〇一七年八月一〇日

亡き母のメモが頼みや盆用意　明日香
鳳仙花弾けし音に犬の耳　智恵子
ドクターヘリ雲の峰へと飛びたちぬ　こすもす
と見る間に百面相や雲の峰　なおこ

二〇一七年八月九日

波しぶき涼しクルーズ疾走す　やよい
山暮れて遠蜩となりにけり　恵三

二〇一七年八月八日

漁火の沖に散らばる夜涼かな　恵三
炎昼や乗る人もなき観覧車　やよい

二〇一七年八月七日

弧を描いて青田を跨ぐ送電線　恵三
懸崖に座して常濡れ滝不動　ぽんこ
大欅数へきれざる蝉の穴　なおこ

二〇一七年八月六日

身をそらし水面をつつく川蜻蛉　ともえ
幾橋を潜りくぐりて船涼し　やよい

二〇一七年八月五日

車椅子押して輪に入る盆踊り　小袖
座布団に赤子すやすや夏座敷　菜々

毎日句会みのる選・二〇一七年八月一三日